

所 管 事 項 調 査

目 次	ページ
1 小学校教科書採択結果について	2 ~ 5
2 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について	6 ~ 7

教 育 委 員 会
令 和 5 年 9 月

1 小学校教科書採択結果について

(1) 教科書採択について

小学校教科用図書の採択替えに伴って、令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択を本年度実施する。

(2) 教科書採択の基本方針

ア 採択を今まで以上に適正かつ公正に行うとともに、長崎市教科書採択審議会規則に基づき、開かれた採択を推進する。

(ア) 採択の公正確保及び採択事務の円滑な遂行に支障をきたさないよう、採択業務終了後、次の事項について公開することを基本とする。

a 採択結果及び採択理由

b 採択審議会等の委員名 など

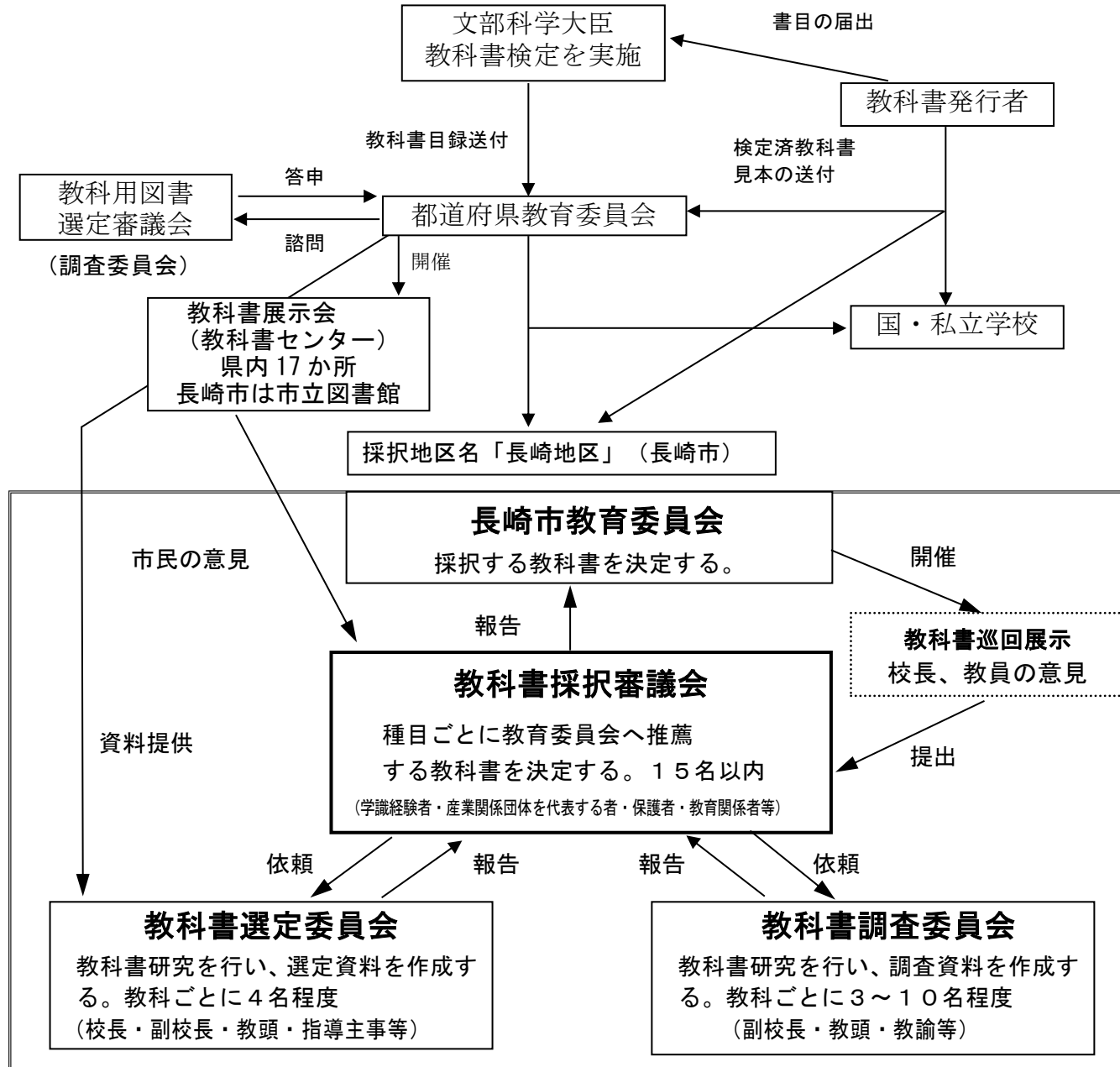
(イ) 採択審議会に学識経験者、保護者代表、産業関係団体の代表等を加える。

イ 教育委員会が責任をもって採択を行うことを、手順の上でも明らかにする。

(ア) 教科書採択審議会の他に、教科書調査委員会及び教科書選定委員会を設置する。

(イ) 各会の審議・調査及び報告は、見本の提供があった全者を対象とする。

(3) 教科書採択の流れ



(4) 教科書採択審議の経過

ア 教科書調査委員会	5月16日～5月31日	3回実施
イ 教科書選定委員会	5月 8日～6月27日	4回実施
ウ 教科書採択審議会	5月 1日、7月11日、7月12日、7月14日	4回実施
エ 教育委員会	5月22日、6月 5日、7月21日、8月18日	4回実施

(5) 採択結果

種 目	発 行 者
国 語	光 村 図 書
書 写	教 育 出 版
社 会	日 本 文 教 出 版
地 図	帝 国 書 院
算 数	東 京 書 籍
理 科	大 日 本 図 書

種 目	発 行 者
生 活	大 日 本 図 書
音 楽	教 育 芸 術 社
図画工作	開 隆 堂
家 庭	開 隆 堂
保健体育	東 京 書 籍
外 国 語	東 京 書 籍
道 徳	東 京 書 籍

(6) 公表

ア 市政資料コーナーにおける公開（令和5年9月1日）

- (ア) 令和6年度年度使用 小学校教科用図書 一覧
- (イ) 委員名簿（教科書採択審議会・教科書選定委員会・教科書調査委員会）
- (ウ) 教科書採択審議の経過
- (エ) 教科書採択審議会 審議会資料
- (オ) 教科書選定委員会 選定資料
- (カ) 教科書調査委員会 調査資料
- (キ) 意見集計結果（校長・教職員）
- (ク) 長崎市教科書採択審議会規則
- (ケ) 教科書採択の基本方針

イ 長崎市教育委員会ホームページにおける公開（令和5年9月1日）

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ 調査内容

(ア) 教科に関する調査

○ 小学校 … 国語、算数 ○ 中学校 … 国語、数学、英語

(イ) 質問紙調査

○ 児童生徒に対する調査 … 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
○ 学校に対する調査 …… 指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

ウ 調査期日 令和5年4月18日(火)

エ 調査実施校数及び児童生徒数

(ア) 実施校数 101校 【調査対象者の在籍する学校の総数】 (小学校：66校、中学校：35校)

(イ) 参加児童・生徒数

・ 小学校6年生 2,887人 ・ 中学校3年生 2,659人

オ 調査結果の公表について

(ア)「学力調査結果の概要」「児童生徒質問紙調査結果の概要」「市全体の平均正答率」、「改善の方向性」についての公表を行う。

(イ)長崎市として、個々の学校名を明らかにした結果の公表は行わない。

(ウ)各学校は、自校の分析結果を踏まえた改善方策の公表を行う。原則として、数値による公表は行わない。

(2) 結果の概要

ア 学力調査結果の概要（「長崎市及び県・全国の平均正答率」、「全国との差」）

※ 数値単位は、%

		小 学 校 6 年		中 学 校 3 年		
		国語	算数	国語	数学	英語
R5	長崎市の正答率	67	61	70	48	42
	県の正答率	66	60	69	48	40
	全国の正答率	67	63	70	51	46
	全国との差	0	-2	0	-3	-4

- 本市の平均正答率については、調査3項目(小学校：算数、中学校：数学・英語)において全国を下回った。
- 下回っている3項目においては、小学校算数が-2、中学校数学が-3、中学校英語が-4である。
- 昨年度（令和4年度）と比較した結果は次のとおり
 - ・小学校（国語）-1から0となり1ポイントの改善。（算数）0から-2へと2ポイント下回った。
 - ・中学校（国語）-1から0となり1ポイントの改善。（数学）-2から-3へと1ポイント下回った。（英語）-2から-4へと2ポイント下回った。

<参考1> 令和4年度の学力調査結果

		小 学 校 6 年		中 学 校 3 年		
		国語	算数	国語	数学	英語(R1)
R04	長崎市の正答率	65	63	68	49	54
	県の正答率	64	62	68	48	54
	全国の正答率	66	63	69	51	56
	全国との差	-1	0	-1	-2	-2

※英語は前回実施年度（R1）の結果

令和5年度全国学力・学習状況調査 学習状況や生活習慣の調査結果の概要（児童生徒質問紙調査からの抜粋）

特徴的な項目について（※全国との差が0以上は○、-は△、+1.0以上の場合◎と評価）

質問項目	小学校			中学校			質問項目	小学校			中学校		
	評価	令和5年度	差	評価	令和5年度	差		評価	令和5年度	差	評価	令和5年度	差
1 朝食を毎日食べている	◎	全国 93.9 市 94.0	0.1	◎	全国 91.2 市 92.7	1.5	9 人の役に立つ人間になりたい	◎	全国 95.9 市 97.6	1.7	◎	全国 94.6 市 96.4	1.8
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	◎	全国 81.0 市 83.4	2.4	◎	全国 78.0 市 80.4	2.4	10 家で、計画的な勉強をする	◎	全国 70.7 市 75.1	4.4	△	全国 55.0 市 53.0	-2.0
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている	◎	全国 90.5 市 91.8	1.3	○	全国 91.3 市 91.9	0.6	11 1時間以上勉強する（小学校） 2時間以上勉強する（中学校）	○	全国 57.1 市 57.8	0.7	△	全国 33.7 市 24.7	-9.0
4 自分によいところがあると思う	◎	全国 83.5 市 88.6	5.1	◎	全国 80.0 市 81.5	1.5	12 地域の行事に参加している	△	全国 57.8 市 56.4	-1.4	△	全国 38.0 市 31.3	-6.7
5 先生は、よいところを認めてくれている	◎	全国 89.8 市 92.7	2.9	◎	全国 87.3 市 91.4	4.1	13 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	◎	全国 75.8 市 76.8	1.0	◎	全国 63.9 市 65.8	1.9
6 将来の夢や目標を持っている	◎	全国 93.0 市 95.3	2.3	○	全国 66.3 市 67.2	0.9	14 学校で、学級の友達と意見交換をする場面でICT機器をどの程度使っていますか。（週3回以上）	◎	全国 62.4 市 73.9	11.5	◎	全国 61.1 市 75.4	14.3
7 人が困っているときは、進んで助けている	◎	全国 91.6 市 93.0	1.4	○	全国 88.1 市 88.7	0.6	15 授業以外で、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピューターなどのICT機器を、勉強のために使っていますか「1時間以上使用している。（小・中学校）」	◎	全国 17.9 市 22.0	4.1	△	全国 13.4 市 12.4	-1.0
8 いじめは、いけないことだと思う	◎	全国 96.9 市 98.2	1.3	◎	全国 95.5 市 97.3	1.8	16 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	◎	全国 78.8 市 81.0	2.2	△	全国 79.2 市 78.8	-0.4

- 「早寝・早起き・朝ご飯」については、小学校が昨年は全国平均を下回っていたが、今年度は全国平均を上回った。小・中とも9割を超えており、概ね良好である。
- 「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、いけないことだと思う」という項目は、引き続き全国平均より高く、健全で良好な意識をもっていることが分かる。
- 「計画的な勉強をする」については、1「よくしている」と2「ときどきしている」の合計で算出した結果、小学校は全国平均を上回った。中学校においては、全国平均に比べ「2時間以上勉強する」の割合がかなり低い。
- 「地域の行事に参加している」の割合は、小・中ともに全国平均を下回っているが、「地域や社会をよくするために何をすべきか」を考えている」割合は中学校は全国平均を上回った。
- 「ICT機器を勉強のために使っているか」について、小学校、中学校ともに全国平均を上回った。「ICT機器を使って友達と意見交換している」についても大きく上回っている。